

火災から3年、首里城正殿着工へ

1. 首里城火災から3年

令和元年10月31日の火災により首里城正殿等が焼失してから3年が経過しました。開発建設部では関係機関と連携し早期の首里城復元に向けて取り組んでいるところです。

復元の状況としては、令和4年9月に木材倉庫・原寸場（仮設）が完成、正殿本体工事の着手へ向けて11月3日には起工式を執り行いました。令和5年に

は正殿を覆う素屋根（仮設）を設置し本体の現地組み立てが始まり、令和8年正殿復元へ向けて整備を進めているところです。

また、県内外の皆さまからの寄付金による沖縄県首里城復興基金を一部活用し、正殿本体工事に用いる大径材、造作材、瓦類、彫刻類等の調達に充てることとしており、沖縄県と連携しながら進めております。

令和元年から開催している首里城復元に向けた技術検討委員会及びそのワーキンググループ会議においても、引き続き議論を行っており、正殿の細部の確認や、正殿完成以降に整備する南殿、北殿等の復元方針の検討を行っているところです。

火災前の首里城



平成31年1月5日撮影

火災直後の首里城(R1.11)



令和元年11月1日撮影

木材倉庫・原寸場完成(R4.9)



令和4年10月9日撮影

素屋根完成(R5予定)

CGイメージ



2. 復元の様子を段階的に公開

木材倉庫・原寸場や素屋根には、一般来園者のための見学窓を設け、工事過程の段階的な公開を行い、見せる復興の一環として取り組むこととしています。

見学スペース
3階建て▶



素屋根内工事イメージ

1～3階に見学スペースを設置。柱や壁、屋根の工事等、それぞれの高さから間近で見学することができます。



▲原寸場見学スペース

原寸場での作業状況を見学することができます。

3. 首里城正殿復元整備工事起工式

令和4年11月3日午後、

工事の安全と無事を祈願して「首里城正殿復元整備工事起工式」を正殿跡及び木材倉庫で行いました。

起工式は、国会議員20名、沖縄県知事、那覇市長他計240名が参加し、岡田沖縄担当大臣等による挨拶、高良技術検討委員会委員長等による祝辞の他、甦る首里城を守る会による伝統芸能「かぎやで風」の演舞が披露されました。続いて木材倉庫に移動し、ノミ入れ（正殿に使用する国頭村産オキナワウラジロガシ）を行いました。

また同日午前に行われた本遣行列（主催：沖縄県）では、中山門跡・守礼門前において沖縄県知事を先頭に地元小学生・高校生や古式衣装の地元団体等によるパレードとともに御材木（オキナワウラジロガシ）が運ばれ、周辺住民や観光客など、多くの人が詰めかけました。

【正殿起工式の様子】



▲岡田沖縄担当大臣による挨拶



▲石井国土交通副大臣による挨拶



▲高良委員長による祝辞



▲田中局長による式辞



▲左：木材倉庫・原寸場 右：起工式会場（テント）



▲「かぎやで風」の演舞



▲ノミ入れ、くす玉開披の状況



▲行列後の記念撮影（沖縄総合事務局、沖縄県、那覇市、地元小学校等）



▲木遣行列の様子

【木遣行列の様子】

4. 首里城復元に向けた技術検討委員会での検討状況

高良倉吉琉球大学名誉教授を委員長とする有識者等からなる「首里城復元に向けた技術検討委員会」は、令和元年12月27日（令和4年12月末までに委員会を11回、ワーキンググループ会議37回を重ねており、復元に向けた技術的な検討を行っています。これまでの正殿復元に関する主な検討内容、現地の状況は次の通りです。

① 木材・瓦類関係（正殿）

大径材は、国分として桁・梁用で356本（国産ヒノキ）、沖縄県分として主に上下層丸柱・小屋丸太梁用で179本（国産ヒノキ169本、

イヌマキ（向拝柱）、県産オキナワウラジロガシ（小屋丸太梁）で、現在調達を進めているところです。

令和4年9月には木材倉庫・原寸場（仮設）が完成し、10月には大径木材の一部が初めて倉庫へ搬入されました。

赤瓦は、正殿で約6万枚を使用します。原土配合はクチャと赤土の7:3を基本とし、シャモット（焼失した正殿の赤瓦破片を粉碎したもの）5%を混入させ、県内で製作する方針です。現在、焼成試験での確認を行っています。

② 防火対策

二度と火災が起きないよう、消防や防災の専門家のご意見をもとに、漏電遮断器の設置など電気系統を原因とする火災の未然防止、熱・煙感知器の設置による火災の早期発見、スプリンクラーの設置による初期消火能力の向上などの対策を講じることとしています。また、消防車が侵入できない城郭内に消火用の水を送る連結送水管の設置、設置した設備を適切に運用し、迅速に初動対応を行うための職員の訓練や消防署との連携等のソフト対策を進めています。

③ 彩色・彫刻関係

新たな知見に基づく主な平成復元との違いは以下の通りです。

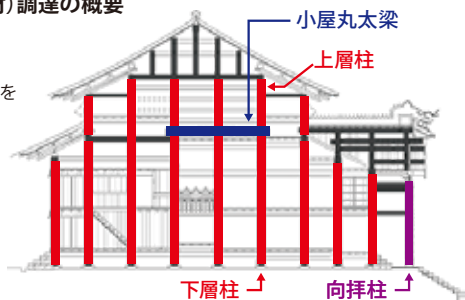
西之廊下 古写真や絵図をもとに再検証を行い、正殿の北側に取り付く「西之廊下」は平成復元時よりも長く、屋根形状も寄棟に変更となります。

久志弁柄 令和の復元では、琉球王国時代の古文書の記録にあった久志間切の弁柄がバクテリア由来の顔料であることを突き止め、その往時と同じ弁柄を用いた赤で塗装することとしています。（平成の復元では市販の顔料を使用。）

■首里城復興基金（寄付金）を活用した県による構造材（大径材）調達の概要

【凡例】
県調達範囲を色塗り
（赤、青、紫）

側面図



木材倉庫・原寸場（外部）

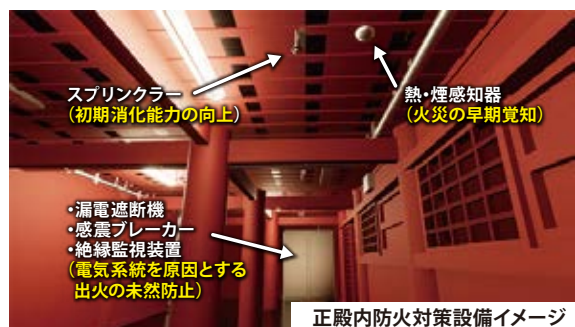


木材倉庫・原寸場（内部）



一部、搬入された大径材

令和の正殿 ～平成復元との違い 防災・防火対策の強化～



正殿内防火対策設備イメージ

令和の正殿 ～平成復元との違い 防災・防火対策の強化～



令和の正殿 ～平成復元との違い新たな知見に基づく復元～

